

## 第25章 地域編①：バンコク首都圏

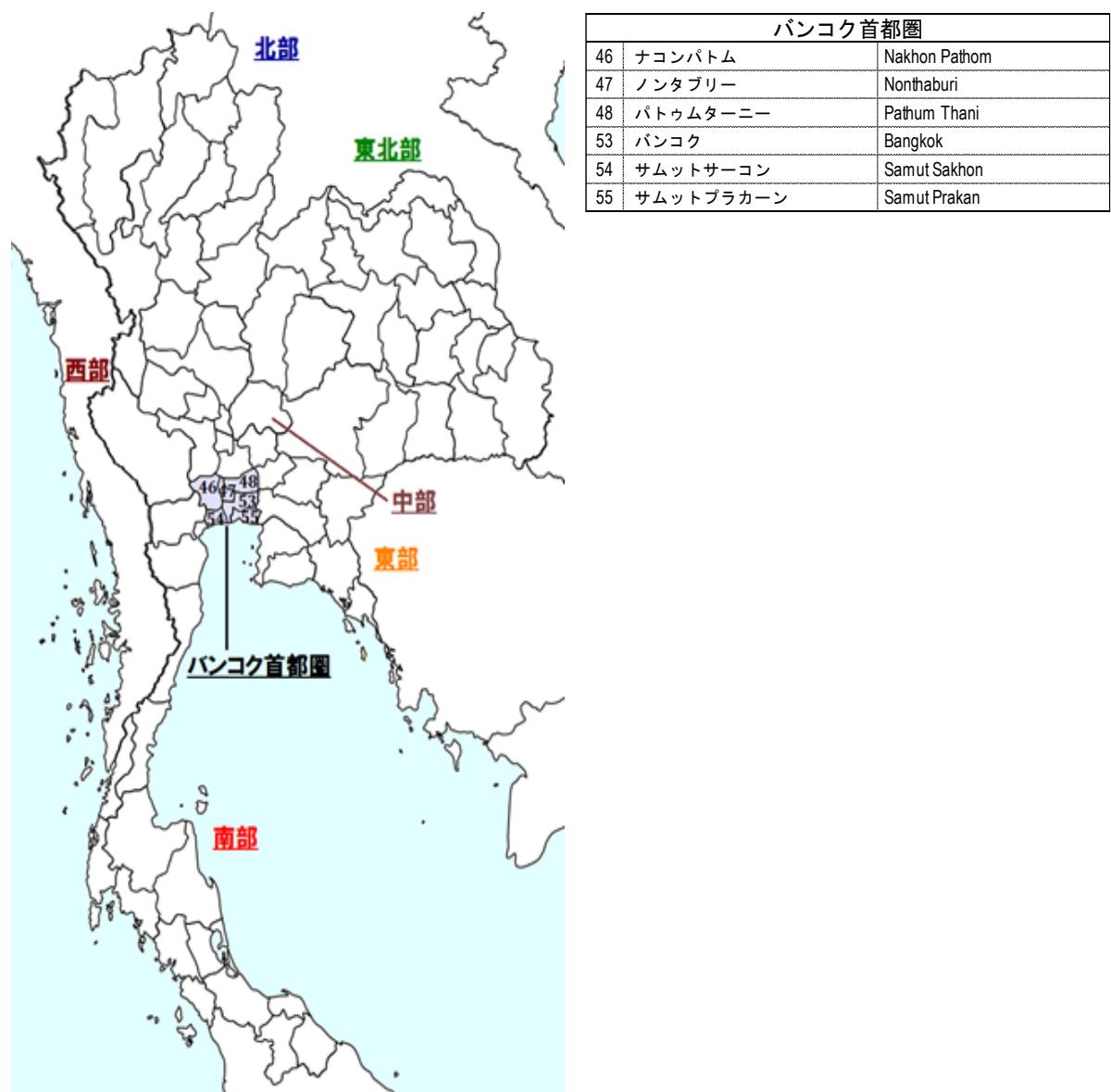
### 1. 地域概要

#### (1) 概要

##### ①バンコク首都圏のタイにおける経済的地位

バンコクはタイの首都であり、政治・経済の中心地である。その経済的地位は非常に高く、バンコク首都圏の2023年の名目GDPは8兆5,702億バーツで、タイ全体の47.7%を占める。1人あたりGDPは、自動車をはじめとする製造業が集積する東部に次ぐ高い水準である。バンコク市内には高級ブランドが入居する百貨店やショッピングモールも多く、消費の活発さを象徴している。

図表 25-1 バンコク首都圏の位置



図表 25-2 バンコク首都圏概要

No	県名	(英語名)	名目GDP [2023年] (100万バーツ)	人口 [2023年] (1,000人)	1人あたりGDP [2023年] (バーツ)
	バンコク首都圏	Bangkok & Vicinities	8,570,179	17,543	488,534
53	バンコク	Bangkok	6,142,910	9,087	675,979
55	サムットプラカーン	Samut Prakan	757,502	2,365	320,294
48	パトゥムターニー	Pathum Thani	460,312	1,868	246,463
54	サムットサーコン	Samut Sakhon	410,768	1,098	374,056
47	ノンタブリー	Nonthaburi	400,388	1,866	214,515
46	ナコンパトム	Nakhon Pathom	398,298	1,258	316,636

(出所) National Economic and Social Development Board より作成

## ②工業団地・日系企業進出動向

バンコク首都圏の主要な工業団地は14カ所ある。パトゥムターニー県のナワナコン工業団地は1971年設立、サムットプラカーン県のバンプー工業団地は1977年設立、バンコクのラッカバン工業団地は1978年設立と、歴史が長く、日本企業も多く進出している。

### (2) 進出日系企業からみた事業・生活環境やコスト

#### ①インフラ・物流

##### 【道路】

道路整備が進んでおり、道路舗装率は100%に近い水準である。国内には9本のアジアハイウェイ路線が通っており、隣国のマレーシア、カンボジア、ミャンマー、ラオスへと陸路で繋がっている。また、バンコクと中国の昆明とバンコクを結ぶ南北経済回廊も開通している。

バンコク市内の移動はBTSやMRTの開通で便利になっている。一方で、車での移動は、依然として慢性的な交通渋滞のために時間がかかり、目的地への到着時間が予測できないこともしばしばである。

バンコク中心部から離れると、交通渋滞は少なくなる。バンコク外環道路やモーターウェイ等、バンコク市内を避ける道路や東部地域へ向かう高速道路は比較的流れがスムーズである。ただし、朝夕は従業員や私立校に通う生徒の送迎、家路につく通勤者のラッシュが重なるため、時間に余裕を持って移動することが得策である。

##### 【港湾・空港】

チャオプラヤ川を28km遡ったところにバンコク港（クロントイ港）があり、1951年の開港以来、バンコクの港として利用してきた。しかし、水路が狭く水深が浅いため、大型船は入港できない。

空港については、タイ最大の国際空港であるスワンナプーム空港がサムットプラカーン県にあり、バンコク市内から東方に約30kmと便利な立地にある。同港は、バンコクから北に20kmのド

ンムアン空港（現在は主に国内線やローコスト・キャリアが就航）のキャパシティが逼迫したことに対応し、2006年に開港した。スワンナプーム空港の貨物ターミナルは総面積19万m<sup>2</sup>、国際貨物ターミナル、国内貨物ターミナル、郵便センター、オペレーションセンターの4つの施設があり、貨物ターミナルはさらに4つ（特急貨物エリア、タイ航空専用エリア、その他航空会社エリア、ペリシャブル専用エリア）に分かれる。また、4つの倉庫を有する免税ゾーンもある。年間300万トンに対応可能とされている。

### 【電力】

バンコク市内では、停電することはまずない。それ以外の地域でも電力供給は安定しているが、雨季には月数回程度の停電が発生する場合がある。工業団地には自家発電設備を有するところが多いが、瞬時に自家発電に切り替わるわけではないため、瞬間停電が生産や設備に影響を及ぼす場合は、無停電電源等の用意が必要となる場合もある。

### 【通信】

固定電話、携帯電話、インターネット環境とも水準は高い。特に携帯電話について、タイの3大キャリアと呼ばれるAIS、DTAC、TRUEはいずれも4G、5G通信を提供している。詳細については第20章「通信」を参照されたい。

### 【不動産】

不動産価格の高騰が続いているため、工業団地の賃料は上昇しているが、オフィスについては新型コロナウイルス感染症の流行を契機に供給過多の傾向となっている。立地に優れ、設備の良い工業団地ではほとんど空きのないところもある。

他方、個人向けではマンション（コンドミニアム）投資が活発であるが、タイ中央銀行は投機の過熱と不動産ローンの不良債権拡大抑制を図り、不動産価格に対するローンの比率に上限を設定した（2019年4月）。だが、新型コロナの影響による購買力低下対策として、不動産評価額に占める借入金の割合（LTV）を、従来の70～90%から100%に引き上げた。なお、不動産取引では日本人をねらった詐欺（利回り保証を説いて投資させ、その後業者が倒産する等）も発生している。

#### ひとくちメモ 14： タイの観光産業

タイでは GDP の約 1~2 割弱を観光産業が占めており、観光客数は 2024 年には 3,555 万人（前年比 26.3% 増）を記録し、2025 年半ばごろには年間約 4,000 万人と、新型コロナウイルス感染症の流行以前の水準に戻るとされている（2025 年の現地渡航時点では、欧米やロシアからの観光客数は順調に回復しているものの、日本や中国からの観光客数は比較的少ないとの声も聞かれた）。タイ当局でも、観光客向けのビザの緩和や、観光客 4,000 万人の誘致と 2.8 兆バーツの収益化を掲げたキャンペーンを打つなど、引き続き積極的に観光業の発展に力を入れている。

他方で、観光業の発展はオーバーツーリズムによる被害をもたらしている。例えばリゾート地として著名なプーケットでは、観光客の急増により、ごみ処理能力を超える廃棄物が発生しており、ごみ集積所に処理できないゴミが積みあがっている状態である。近隣住民に対しても異臭などの被害が生じており、空気環境の悪化が懸念されている。

このように、観光業の拡大はホテル業や飲食業などの関連産業の成長を促す一方で、環境面での負荷も伴うため、これらの分野でタイ進出を検討する際には、関連政策や地域の受け入れ体制に十分留意する必要がある。

#### 【水】

バンコクにはチャオプラヤ川という豊かな水源があり、水不足になることはまずない。むしろ、土壌が粘土質で水はけが悪いこともあります。雨季に大量の雨が降った場合には、バンコク市内でも道路が水浸しになるのはよくあることである。2011 年にはバンコクから北のアユタヤで大規模な洪水が発生し、工業団地が水没したため多くの日系企業が被災した。この地域の工業団地は洪水の経験を踏まえ、堤防の建設や排水処理の強化等の対策を講じている。

#### ②労働事情

##### 【人材】

バンコクとその周辺にはチュラロンコン大学をはじめ、タイの中でトップクラスの教育機関があり、人材の質は相対的に高いといえる。しかしながら、経理・人事・法務・IT 等の専門人材の確保が難しくなっているようである。特に、中間管理職、経理担当者等のマネージャークラスや、大学工学部卒・工業専門学校卒のエンジニア等、専門分野の優秀な人材の確保が難しいとの声があった。

なお、2006 年には泰日工業大学が設立され、19 年には日本の高専機構が協力し、キングモンクット工科大学ラカバン校に付属校として KOSEN-KMITL（タイでの高専の第一号校）が設立されるなど、技術者を養成する教育機関も創設されており、エンジニアの育成を行っている。

##### 【賃金】

バンコク周辺はタイ経済の中心ということもあり、賃金は他の地域に比べると高めである。タイは失業率が低く、若い層を中心にワーカーの採用が逼迫しているため、工業団地内でワーカーの取り合いになっている。ワーカーは給与が少しでも良い工場を求めて頻繁に転職する傾向が強く（賃金の高い大手企業については例外あり）、工業団地内で労働争議に発展する場合もあるため、賃金上昇圧力は強い。マネージャーやエンジニアについても給与面の要求は高く、数年で転職していく人が多い。

図表 25-3 バンコク首都圏の県別最低賃金（2025年1月）

県名	最低賃金（バーツ）
バンコク、サムットプラカーン、パトゥムターニー、 サムットサーコン、ノンタブリー、ナコンパトム、	372

（出所）JETRO 資料より作成

### ③生活環境

#### 【気候】

日本の気象庁のデータ（2024年）によると、バンコクにおける月平均気温（平年値）は最高値が4月の30.8°C、最低値が1月の27.6°Cであり、若干ではあるが気温は上昇傾向にある。また、降水量は5月から10月にかけて多く、雨季のピークを迎える9月と10月における月間降水量は300～345mmに及ぶ（日本の梅雨は平年100～200mm程度）。

#### 【教育】

バンコクには、泰日協会学校（バンコク日本人学校）がある。同校は1926年創立の盤谷日本尋常小学校を前身とする、世界的にも長い歴史のある日本人学校である。小学部と中学部があり、2025年4月時点、小学部は74クラス1,604名、中学部は18クラス434名の計2,038名であり、世界で最も規模の大きい日本人学校となっている。

#### 【医療】

バンコクの医療水準は高く、市内の私立総合病院には日本の大病院と比べても遜色のないレベルの医師、設備を備えた病院がある。日本の医学部への留学や病院での研修を受けたタイ人医師（日卒医と呼ばれる）が勤務する病院もある。

公立病院でも大きいところは、分野によって高度な医療が受けられる場合があるが、駐在員とその家族等、長期滞在している日本人の多くは、ほとんどの場合、私立病院を利用しているようである。

外務省の「海外安全ホームページ」上で各国の医療事情についての情報を公開している。タイのページ（<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/thailand.html>）では、バンコク市内の病院情報として、バンコク病院やバムルンラード病院等の私立総合病院5軒を含む10軒の病院が紹介されている。あわせて、スワンナプーム国際空港内の病院2軒、ドンムアン国際空港内の病院2軒及び歯科医院2軒も紹介されている。

#### 【治安】

バンコクの治安は悪くはないが、政情不安等に起因したデモがたびたび発生する。外務省の渡航情報（危険情報）では、2024年3月末時点の危険レベルが「十分注意してください」であった

が、2023年5月の総選挙を経てセター前政権が発足して以来、治安面で懸念すべき政治デモや抗議活動等は行われていないことから、2024年4月に当該危険レベルが解除された。

バンコクでデモが行われる場合、その開催場所はルンピニ公園など特定の場所であり、基本的には事前に周知されることから、そのような情報を得た場合は開催場所に近づかないほうが良い。また、夜間外出禁止令が発令されると、配達車が出せない、夜勤の従業員が移動できない等の影響があるものの、生産活動に大きな影響は及ぼさないようである。

#### ひとくちメモ 15 : タイで人気の K-POP

K-POP と言えば、BTS（防弾少年団）や、BLACKPINK 等、世界的に人気を誇るグループも存在しているが、タイでも絶大な人気を誇っている。「2PM」の NICHKHUN や、「BLACKPINK」の LISA 等、タイ人メンバーが活躍していることも理由の一つであるようだ。特に「BLACKPINK」の LISA はインスタグラムのフォロワーが 1 億人を超える（2025 年 5 月時点）、セリーヌといった欧米ハイブランドのグローバル・アンバサダーを務める等グローバルに活躍しており、タイ人にとっても誇りとなる存在であるようだ。

このような K-POP 人気を反映してか、2022 年にはバンコクにある国立シラパーン大学が、音楽学部に、エンターテインメントの専攻を新設している。この新しい専攻では、ダンスやコーラスに加え、効果的な SNS の発信等も含め、幅広く学べるようである。

現地調査においては、このような K-POP 等、韓国文化の影響で、若い層には圧倒的に韓国が人気であり、飲食においても韓国焼肉が流行っているという声もあった。

日本のエンターテインメント業界からは、吉本興行がアジアでエンターテインメント事業を展開するための基盤構築として「アジア住みます芸人」というプロジェクトを展開しており、タイでも実施中である。その他、日本のアニメやゲームは引き続き根強い人気を誇るもの、ゲームに関しては、日本が強みを持つ高価なテレビゲームよりも、手軽に遊べるスマホゲームが流行しており、その点で中国企業が先行しているとの指摘もあった。こうした状況を踏まえると、日本のエンターテインメントが今後もタイ市場で存在感を維持・拡大していくためには、現地の消費スタイルや競合動向を的確に捉えた戦略的な展開が求められる。

#### 【住居】

住居は、他の地域と比較すると割高であるが、多様なサービスアパートメントが用意されている。バンコクにおける家賃は地域により異なるものの上昇傾向にあり、セキュリティー等が完備された住居であれば、日本人が多いといわれるスクンビット地域の家族向け住居の場合、家賃の相場は月額 96,000 バーツ（約 40 万円）（2025 年 3 月）、最低でも月額 55,000 バーツ（約 23 万円）程度（2025 年 4 月）となっている。

#### 【日本食・スーパーマーケット（小売）等】

バンコクは ASEAN 諸国の中では日本食や日本食材を容易かつ比較的安価で調達できる都市である。バンコク市内には、日本食材を扱うスーパーマーケットの「フジスーパー」があり、2023 年 2 月に新店舗が開業したことで全 5 店舗となった。このほか、「エンポリアム」、「サイアムパラゴン」、「セントラル」といった大型商業施設などでも日本食材の調達が可能である。

日本から進出した企業としては、「ドン・キホーテ」を展開する株式会社パシフィック・インターナショナルホールディングスが挙げられ、2019 年 2 月にバンコク 1 号店として生鮮（青果・鮮魚・精肉・惣菜）をはじめとした食品や日用消耗品を扱う「DON DON DONKI Thonglor」をオー

ブンした。同社はその後も店舗を増やし続けており、2023年11月にはバンコク7店舗目となる「DON DON DONKI The Mall Lifestore Bangkapi」をオープンした。

そのほか、イオン株式会社（旧ジャスコ株式会社）は1984年にサイアムジャスコ（現イオンタイランド）を設立し、現在はタイ国内に78店舗を構えている。イオンタイランドは、バンコク市内に23軒出店しており、うち6軒は店舗面積が300m<sup>2</sup>以下の「マックスバリュ タンジャイ」である。また、グループ会社であるイオンクレジットサービス株式会社（現イオンフィナンシャルサービス株式会社）も1992年に現地法人を設立し、2001年にはタイ証券取引所に上場した。同社は、タイで展開しているイオン、タイ国際航空との提携クレジットカードや鉄道事業等を展開するBTSグループとの提携による電子マネー「ラビット」を搭載した一体型メンバーカードを発行しているほか、保険事業及びサービス事業への展開を進めている。



バンコク市内のDON DON DONKI Thonglor（左）と  
小売店のラビットカード決済端末（右）

外食産業では、バンコクに住むタイ人も日本食を好むため、「スシロー」、「大戸屋」、「丸亀製麺」、「すき家」、「一風堂」等のレストランから「ビアードパパ」、「シャトレーゼ」等の菓子店まで日系の外食チェーンの進出が多い。バンコク市内の大型ショッピングモールのフードコートには、ほとんどの場合日本食を提供する店が入居しており、価格帯は日本と同等か少し高い程度である。また、バンコクではフードデリバリーが発達しており、日本食を含むお弁当の宅配も充実しているなど、気軽に手頃に日本食を楽しむことができる。

一方、バンコクには高級日本料理店も存在し、富裕層やビジネスにおける接待などに利用されている。特に、富裕層には日本式の「おまかせ」による注文が人気となっている。

**ひとくちメモ 16： タイでも人気のサッカー**

タイは、サッカーへの関心度が高い国といわれる。日本のJリーグも2012年のタイ・プレミアリーグとのパートナーシップ協定を結んでおり、現在はタイのBGパトゥム・ユナイテッドでプレイするチャナティップ・ソングラシン選手も、2017年から2023年までコンサドーレ札幌、川崎フロンターレに所属していた。彼の札幌移籍をきっかけに、Jリーグで活躍するタイ人選手が増えており、ティーラトン・ブンマタン選手は横浜F・マリノス時代にJ1優勝を成し遂げている。

ジェトロのレポートによると、Jリーグは、タイでの認知拡大を目的に、過去にはバンコク高架鉄道へのラッピング広告やパブリック・ビューイング会場での日系企業による商品プロモーション（例：赤城乳業の「ガリガリ君」、和幸のカツサンド提供）なども実施してきたとのことである。こうした取組は、日タイ間のサッカーを軸としたビジネス展開にもつながっている。

**【金融】**

バンコクには、日本のメガバンク3行（三菱UFJ銀行<sup>21</sup>、三井住友銀行、みずほ銀行）や三井住友信託銀行の支店があり、主に日本企業や現地の大手企業、国際的に事業を展開する欧米企業のタイ子会社向けに、融資や為替等の法人業務を行っている。また、地方銀行や信用金庫がバンコクに駐在員事務所を設立するケースも多い。駐在員事務所の場合は情報提供サービスが中心だが、タイに進出している各行の取引先に日系企業間の情報交換の場を提供することで、ビジネスにつなげることを目的とした交流会も行っている。

他方、個人向け業務では、三菱UFJ銀行の場合、2013年に買収したアユタヤ銀行で口座開設ができ、日本語サービスも提供している。また、三井住友銀行は2016年にバンコク銀行と業務提携し、三井住友銀行のバンコック支店に口座を持つ顧客であれば、バンコク銀行の支店から三井住友銀行の（バンコック支店）口座に預金することが可能となっている。地場銀行では、カシコン銀行に日本語サポートデスクが設置されている。

**2. 主要工業団地**

No.	工業団地名	所在地	産業エリア 総面積
1	Bang Chan Industrial Estate	60 Seri Thai Soi 87, Seri Thai Road, Min Buri, Bangkok 10510	82ha
2	Gemopolis Industrial Estate	47 / 31 Moo 4, Sukhapiban 2, Dok Mai, Prawet, Bangkok 10260	13ha
3	Lat Krabang Industrial Estate	40 Soi Chalongkrung 31, Lumplathiew, Lat Krabang, Bangkok 10520	408ha

<sup>21</sup> 三菱UFJ銀行は、2013年にアユタヤ銀行を買収し、2015年に三菱東京UFJ銀行バンコック支店（当時）との統合を完了している。

No.	工業団地名	所在地	産業エリア 総面積
4	Bangkadi Industrial Park	159 Moo 5 Tivanon Rd., Bangkadi, Muang, Pathumthani 12000	192ha
5	Nava Nakorn Pathumthani	999 Moo 13 Phaholyothin Rd., Klong 1, Klong Luang, Pathumthani 12120	1,038ha
6	Asia Industrial Estate (Suvarnabhumi)	Luang Pang Rd., Km.13-14, Klong Suan, Bang Phli Noi, Samut Prakarn 73001	462ha
7	Bangplee Industrial Estate	132 / 2 Moo 17, Thepharak Road, Bang Sao Thong Samut Prakan 10540	156ha
8	Bangpoo Industrial Estate	Sukhumvit Road Km. 34-37, Bangpoomai and Praeksa, Muang, Samut Prakan	875ha
9	Bangpoo Nuea Industrial Estate	618 Nikkom Makkasan Rd., Makkasan Subdistrict, Ratchathewi District, Bangkok 10400	N/A
10	Bangkok Free Trade Zone (Bangna-Trad Km.23)	1040 / 1 Moo 15 Bangsaothong, Samut Prakan, Bangkok 10570	N/A
11	Bhakasa Industrial Estate	595 Moo 4 Praksa sub-district, Mueang Samut Prakan district, Samut Prakan 10280	104ha
12	Maharaj Nakorn Industrial Estate	Bangkajao, Muang, Samut Sakhon	16ha
13	Samut Sakhon Industrial Estate	39 / 5 Moo 2 Bangkrajao, Muang, Samut Sakhon 74000	233ha
14	Sinsakhon Industrial Estate	30/1 Moo 2 Chetsadawithi Rd., Khok Kham, Mueang, Samut Sakhon 74000	N/A

(出所) BOI より作成

ひとくちメモ 17：「ロイクラトン」祭り

「ロイクラトン」とは、灯籠（クラトン）を川に流す（ロイ）というタイの人々の間で古くから続いている風習だ。旧暦12月（現在の10月または11月）の満月の夜に人々が川岸に集まり、川の女神「プラ・マー・コンカー」へ感謝の気持ちを捧げる。13世紀のスコータイ王朝の王妃がバナナの葉でハスの花をかたどった灯籠をつくり、満月を映した川に流したことがそのはじまりとされている。ロイクラトンの当日は、街全体がロイクラトン祭り一色になる。バンコク市内では公園の池や、市内をめぐる水路等で灯籠を流す光景を目にすることができる。川の周辺には灯籠を売る屋台が並び、お祭りムードを盛り上げている。

近年では、発泡スチロールやパンで作られたクラトンも見られるようだが、環境保護の観点から自然素材を作ったクラトンが推奨されている。さらに、タイ政府は観光振興政策の一環として、ロイクラトン祭りを世界的な観光イベントに格上げすべく、2025年3月にUNESCOの無形文化遺産リストへの登録申請を行った。こうした環境配慮と国際化の取組により、ロイクラトンは伝統を守りつつ持続可能な形で進化し、タイ文化と観光の象徴としてあり続けるだろう。